

# 保護司会連絡協議会会長賞

堺市立 新金岡東小学校 六年

森 内 香 鈴

## 社会を明るくするために考えたこと

私は、虐待や犯罪など、様々な環境が一人一人の子どもに深く影響していると思いました。そんな犯罪は悪いこと。でも、誰だつて一つのことには大して何か理由があつてしてしまつたことではないかと思ひました。そもそも始まりは、家庭環境にあるのではないかと思ひます。子どもだから、大人だからなんていう人も多いですが、子どもも大人も同じ人間、差別する権利もないと思ひは思つています。子どもだからこそ分らないのは当たり前だし、大人だからといつて失敗しない訳ではない。犯罪をなくすこと、解決することはできないと分かつていても、子どもだから身動きをとれないと分かつていても、私は子どもでも話を聞くことはできるし、解決できなくても、減らそうとがんばれば、何かネジがとれたようにみんな変わっていくと思ひました。でも、誰だつてすぐに本音を出せない。誰だつて、すぐに変わることはできない。だからこそ、チャレンジしていつていきたいと思ひました。

犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深めていくのも明るい社会への第一歩じゃないかと思ひます。

こうして、犯罪を犯してしまう加害者は、話を聞いてもらえる環境がつくれていないことにも問題があつたと思ひました。毎日のように事件（犯罪）のニュースでは、たいほされた人など、裁判のでき事が発表されています。安全で安心な暮らしは、全ての人の望みです。犯罪や非行をなくすには、罪を犯してしまつた人を処罰することも必要ですが、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家族や地域づくりをすることも、とても大切なことではないでしょうか。立ち直りを支える家庭や地域をつくる。そのためには、一部の人たちだけでなく、地域の全ての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があると感じました。犯罪を犯した人だけでなく、大人になったときに影響して、前に進めなくなるかもしれないからです。例えば、犯罪を犯した人、いじめをする人、いたずらをする人、そんな人たちは、どんな思いでやっているのでしょうか？私たちのつらい気持ちに分らないのでしょうか？私たちがからするとつらい気持ち、めいわくな気持ちがあるけど、それ

がやめられないということには気付かなかったというより、悪いことをする人たちにとっては、「悪いことをしても注意されないんだ！」と思っているのではないかと思いましたが、かりにそう思っているとしてまわりもなぜ声をかけてあげたり、「それはダメ！」と注意してあげなかったのでしょうか。それはそれで、まわりもどうかと思いました。そのように、ふざけたり、してはいけないことでも、遊びのようにしている人たちをとめるのも、私たちの役割であり、明るい社会をつくるための呼びかけみたいなものだと私は思いました。そこから、犯罪の減少へとつながるのではないかと考えました。

このように、小さな悪いこと、不安、心配なことを片付けずに放っておくと悪化してしまいます。その前に、そんな人たちをサポートしていききたいと思いました。犯罪や非行をした人の立ち直りに向けた取組は、今この瞬間も私たちが暮らす地域の中で行われています。そしてこれらの取組が地域の中で行われていることについて、理解することが、犯罪や非行のない地域づくりの力になっていくと思っています。この運動を通して、安全で安心な地域社会の実現のための取組に私も協力していききたいと思います。

